

はじめに

子供の頃、僕は〈変な人〉になりたかった。

偉人と呼ばれる人には興味がなかったが、変人・奇人には食いついていた。

クラス替えの自己紹介で、

「僕は、皆から変な人と呼ばれたい」と言っただけだ。

でも、本当に〈変な人間〉は、自分のことを変だとは発言しない。

僕は、〈変な人〉に憧れるごく普通のノーマルな人間である。

周辺の人間は、僕のことをそうは見えないようだが……。

とにかくそんなわけで、僕は〈変な物〉にも眼がいくようになり、

ついには大人になって、〈変な物〉をコレクションし始めた。

この本は、僕が収集した〈変な物〉に関するモノである。

特に〈変な物〉と意識することもなく買った物もあれば、

「これはくだらない、これは意味がない、これはなさけない」と

意識して買った物もある。

役に立つ物、人気がある物、数字が結果、数字が全ての時代だからこそ、

〈変な物〉が必要だと僕は考えている。

価値観への抵抗、美意識の反逆、〈変な物〉があるうちは、

世界はまだまだ大丈夫である。

笑いとばすもよし、思想を感じるもよし、哲学を見つけるもよし、

僕が見つけた〈変な物〉に、

あなたなりの価値判断をしていただければと思っております。

喰始の〈変〉がいっぱい 目次

はじめに 2

喰始の〈変〉モノ写真館 8

喰始の秘蔵〈変〉コレクション初公開

貸本時代の超レアマング本
水木しげるの『ブル探偵』 18

『すぐ行方不明になる』希少本
『死んだ猫の1001の使い方』 22

ハワイで見つけたヒカリモノ
発光球体製造機 26

タイの路上で見つけた芸術作品
立体アートのピカン 30

変幻自在な置物たち
アートなカエルとワニ 34

リアルなチンチン付きベビードール
中年親父人形「ババドール」 40

珍しい・面白いカレンダー
カレンダー収集家の苦惱 44

「リース作家」喰始の作品の数々
フィギュアリースの正体 48

止めるまで廻り続ける目覚まし時計
目覚まし怪獣「ぐるゴン」 52

昭和三十年代の漫画がここにある！
貸本漫画のお宝 56

中国産ならではの石の置物
恐るべし、白菜 60

三六〇度首振り扇風機・ぼんぼり付き
部屋の真ん中にある家電用品とは？

64

巨大な砂のウンコ像
ずばり、ウンコである 68

パーカウンターと空飛ぶ円盤スタンド
夜の演出・電気スタンド 72

血しづきが飛ぶスノーボール
正式にはスノードーム、でもスノーボール 76

映画が娯楽の王様だった時代のお宝
ロビーカードって何？〈前編〉 80

映画が娯楽の王様だった時代のお宝
バンコックのロビーカード売り〈後編〉 84

かぶらない・かぶれないアートの帽子
ウンコの帽子、ウンコのキュービー 88

ワハ本舗が「ダルマ本舗」に!
仁義なきダルマ戦争〈前編〉 92

売り上げ一位の「ダルマ作家」は久本雅美
仁義なきダルマ戦争〈後編〉 96

ドラマチックなプリントシャツ
純文学を着る 100

まるで空爆!? 中国の大晦日は爆竹パレード
上海の変な大晦日 104

中国政府公認の職人による似顔像
自分自身の標本箱 108

着せ替え人形ならぬ首すげ替え人形
ゾンビヘッズ 112

貸本漫画時代のカッコいい侍キャラクター
時代劇のフランケンシュタイン 116

最新機器にも〈変〉モノはある
超大画面テレビと立体テレビ 120

〈変〉コレクター対談 125

DJ OZMA × 喰始

「売れるわけないだろう」が、そそるんだよね



中年親父人形「パパドール」

藤子不二雄 Aさんに、〈変〉なモノコレクションの話聞いた。

東京都青梅市に赤塚不二夫会館があるのだが、その二周年記念イベントの赤塚真知子夫人と藤子不二雄 A氏の対談の司会という仕事が無い込んだのだ。

実は、藤子不二雄 Aこと安孫子素雄氏は〈変〉なモノコレクションの大家で、僕のコレクションに多大な影響を与えた人なのである。安孫子氏の〈変〉コレクションの中身は、三十年前のマンガ『ぶきみなら週間』という連作のタイトルを見ればわかる。「毛のはえた楽器」「爪のある杖」「串のはいた鞭」「鎖のついた武器」「目のない舞姫」、どれも一筋縄ではいかない〈変〉なモノである。

「一番お気に入りのコレクションは？」の質問に、安孫子氏は「インドの舞姫人形」と答えた。

安孫子氏の言葉を借りると、「首のつけ根と腰の部分にバネが仕込んであって、額を指でつつくと、怪し気に首と腰を揺らせる踊り子の人形。単純な仕掛けなのだが、その動きが実に妖艶で、まさにインド舞踊団の舞姫。この人形を相手に御酒を飲むとエロチックな気分になる」そうである。

ということ、今回の僕の〈変〉コレクションは人形。

残念ながら僕の所蔵する人形は、揺れることもなければ怪しくもない、否、ある意味では実に怪しいかもしれない。

僕の所蔵する人形は、何も身に付けていない、裸体なのである。それも男の裸の人形なのだ。男で、裸で、ハゲで、ヒゲで、デブで、チビの中年の親父の人形、これほど怪しいモノはない。さらにこの親父、照れることもなくオチンチンをみせている。どうです、充分すぎるほど怪しいでしょう。

洋服を脱がせるとオチンチンのついている人形というと、新宿二丁目（ゲイ）の人のために売り出されたモノがある。そっちの方は、イケメンで、マッチョで、若い男性。僕の方は、ハゲで、ヒゲで、デブで、チビで、中年の男性。まるで違う。おまけにこの人形、新宿二丁目のそういうお店で見つけたわけではない。子供連れの客もいる普通

眺めてるだけで、幸せな気分させてくれる無邪気な中年親父人形「パパドール」



体(ボディ)は同じモノを使用しているのが残念といえは残念である。それにしてもありアルなおチンチンのついている赤ん坊人形(ベビードール)はどういうニーズ(需要)があつたのか、不思議である。

ちなみに、この親父人形(パパドール)は五種類ある。体毛の濃い親父、薄い親父、笑つてる親父、ちよつとグズツてる親父、眠たそうな親父、五人の親父が仲良く並んで坐っている。

のオモチャ屋で買ったのだ。
ネタをばらすと、実はこの人形、親父になる前はパンツをはいたかわいい赤ん坊だつたのだ。かわいいけれど親父顔の赤ん坊人形(ベビードール)を見つけ、僕は思いついてしまった。この赤ん坊は立派な親父になる！正直言つて、最初はこの赤ん坊が男の子か女の子かわからなかつた。ところが、パンツの中をのぞいてみると、あつただ！おチンチンが。人形なのに。
これはもはや運命である。
赤ん坊の顔に無精髭を書き、腕と足に体毛を書き、おチンチンのまわりに陰毛を描く。もともと、親父になる素質のある赤ん坊人形(ベビードール)だつたとはいえ、僕は驚いた。本当にかわいい親父になつたのだ。赤ん坊が。
そんなわけで、僕の部屋の本棚には、おチンチンまるだしの親父が、笑顔で手足を広げて笑っている。